



令和6年度 学校教育目標『自立・共生』

自分で判断行動し 共に高め合う生徒

藤枝市立青島中学校だより

2月号



少しずつ春の訪れを感じる季節になりました。この時期になると、学校としては1年のまとめの段階に入り、1、2年生は「修了式」「進級」、3年生は「進路決定」「卒業式」が目前に迫ってきます。1年間同じ教室でともに学んだ仲間への感謝の思い、3年生は3年間ともに同じ時を過ごした仲間との思いを胸に、1年の締めくくりにふさわしい学校生活を送ることができるよう期待しています。

3月の月行事予定

日	曜日	給食	部活	おもな行事
3/1	土			
2	日			
3	月	○	×	
4	火	○	○	
5	水	弁当	×	公立高校入試Ⅰ、【3年】③④⑤⑥カット
6	木	弁当	×	公立高校入試Ⅱ、【3年】③④⑤⑥カット
7	金	○	×	【全学年】⑥カット
8	土			
9	日			
10	月	○	×	【全学年】⑥カット、解団式(PMグループ)
11	火	○	×	【3年生】⑤⑥卒業式全体練習、【1・2年生】⑤⑥カット
12	水	○	×	3年生を送る会
13	木	○	×	解団式(AMグループ)
14	金	○	○	【3年】弁当なし、【3年生】公立高校合格発表 【1・2年生】⑥カット、【3年生】③④⑤⑥カット
15	土			
16	日			
17	月	弁当	×	
18	火	×	×	修了式・卒業式準備
19	水	×	×	【3年】卒業証書授与式、【1・2年】休み
20	木			
21	金			
22	土			
23	日			
24	月			
25	火			
26	水			離任式
27	木			
28	金			
29	土			
30	日			
31	月			

<中学生による小学生へのあいさつ運動>



2月17日(月)に「中学生による小学生に向けてのあいさつ運動」を実施しました。35名の生徒が参加し、登校中の小学生とあたたかなあいさつを交わしていました。

<校則検討委員会 校長先生との協議>

1月16日(木)に校則検討委員が校則における生徒の実態アンケート結果を、校長先生に伝えました。委員長の片山こゆきさん、副委員長の前田凜さんは「校長先生との話を通して、校則が多くの人に関係したり、生徒の命を守ることに関係したりするのを知りました。」と話し合いの有意義さを実感していました。校則について真剣に伝える姿からは、生徒が主体的に学校のことに参画しようとする強い意志が感じられました。



<ふじえだ元気大賞 特別賞 受賞>

昨年度、能登半島地震が発生し甚大な被害を及ぼしました。その際、被災し、白山市に避難した輪島市の中学生に対して、応援メッセージや募金・支援物資などを官民で協力し送り届けました。青島中学校をはじめとする藤枝市内の中学校も「能登半島支援グループ」として参加しました。この活動が評価され、藤枝市から「特別賞」をいただきました。



R 6 全国学力・学習状況調査結果

3年生を対象に、4月18日（木）に行われた本校の全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。
なお、表中の記号は以下のようです。

平均正答率が 大きく上回っている・・・◎ 上回っている・・・○
同じ程度・・・◇ やや下回っている・・・▽ 大きく下回っている・・・▼

<教科に関する調査>

数学 学習指導要領の領域	県平均に 対して	全国平均 に対して
全体	◇	◎
数と式	◎	◎
図形	◎	◎
関数	▽	◇
データの活用	▼	▽

国語 学習指導要領の内容	県平均に 対して	全国平均 に対して
全体	○	○
言語の特徴や 使い方に関する事項	○	○
情報の扱い方 に関する事項	○	○
我が国の言語文化 に関する事項	▽	▽
話すこと・聞くこと	◎	◎
書くこと	▽	▽
読むこと	◇	○

<教科に関する調査結果の考察>

国語の平均正答率は、県・全国を上回る結果となりました。特に「話すこと・聞くこと」においては、定着が見られます。これは、自分の考えをもち、仲間と協働的に学ぶ本校の授業が生徒の力になっているものと思われる。

一方、「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」については、課題が見られます。言語文化を意識した授業や、根拠を明確にして自分の考えを書くことができる授業を目指していきたいと考えています。「読むこと」については、本校・県・全国ともに正答率の低さが目立ちました。青島地区で推進している「家読（うちどく）」などを活用し、読むことに触れる機会を作っていきましょう。

数学の平均正答率は、全国を大きく上回る結果となりました。特に「数と式」「図形」においては、定着が見られます。目的に応じて式を変形したり、空間的に解釈したりすることができています。

一方、「関数」「データの活用」については、課題が見られます。複数の情報を、式や表やグラフを関連付けて処理することができる授業を目指していきたいと考えています。「図形」については、本校・県・全国ともに正答率の低さが目立ちました。例えば、タブレット（ICT）を活用すれば、イメージしにくい図形も可視化できます。タブレットを上手に使うことで空間認識を高める機会を作っていきましょう。

<質問紙に関する調査結果の考察>

質問紙調査からは、本校の強みと課題が見えてきました。

県・全国を大きく上回っていた項目は「人が困っているときに進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「普段の生活で幸せな気持ちになる」「社会をよくするために何かしてみたい」などです。本校の生徒は、地域や家庭の穏やかな環境の中、人とのつながりに幸福感や可能性を感じているように思えます。学校ではそのような生徒を支え、自信をふくらめていけるような教育を目指していきます。

一方県・全国を下回っていた項目は「タブレットの学習利用」「学びを実生活に結び付けて考えたり生かしたりできる」「自分が努力すべきところを決めて取り組んでいる」などです。家庭や学校での学習の自己調整の育成が今後の課題であると考えられます。

令和6年度 全国学力・学習状況調査についての詳細や、報告書・調査結果資料については、国立教育政策研究所のHP（右の二次元コード）よりご確認ください。

